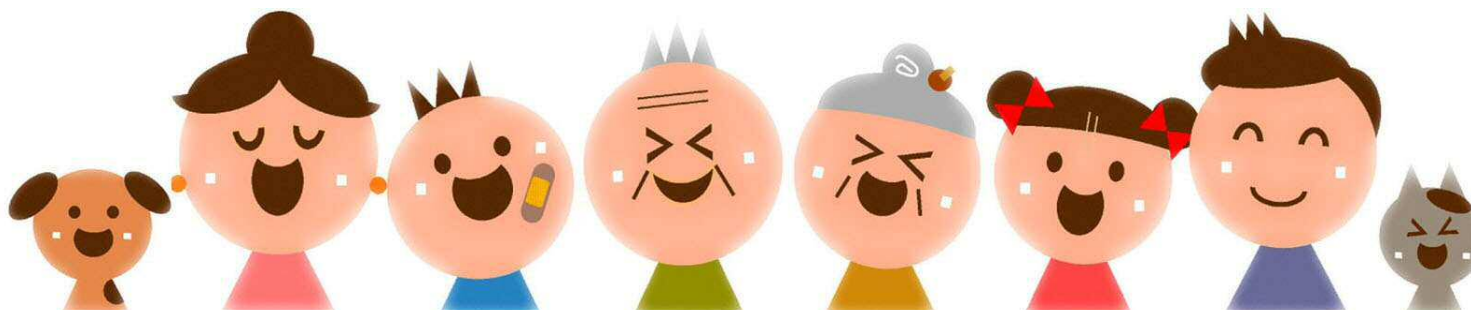


都市空間向上計画 概要と進捗の報告



平成31年3月

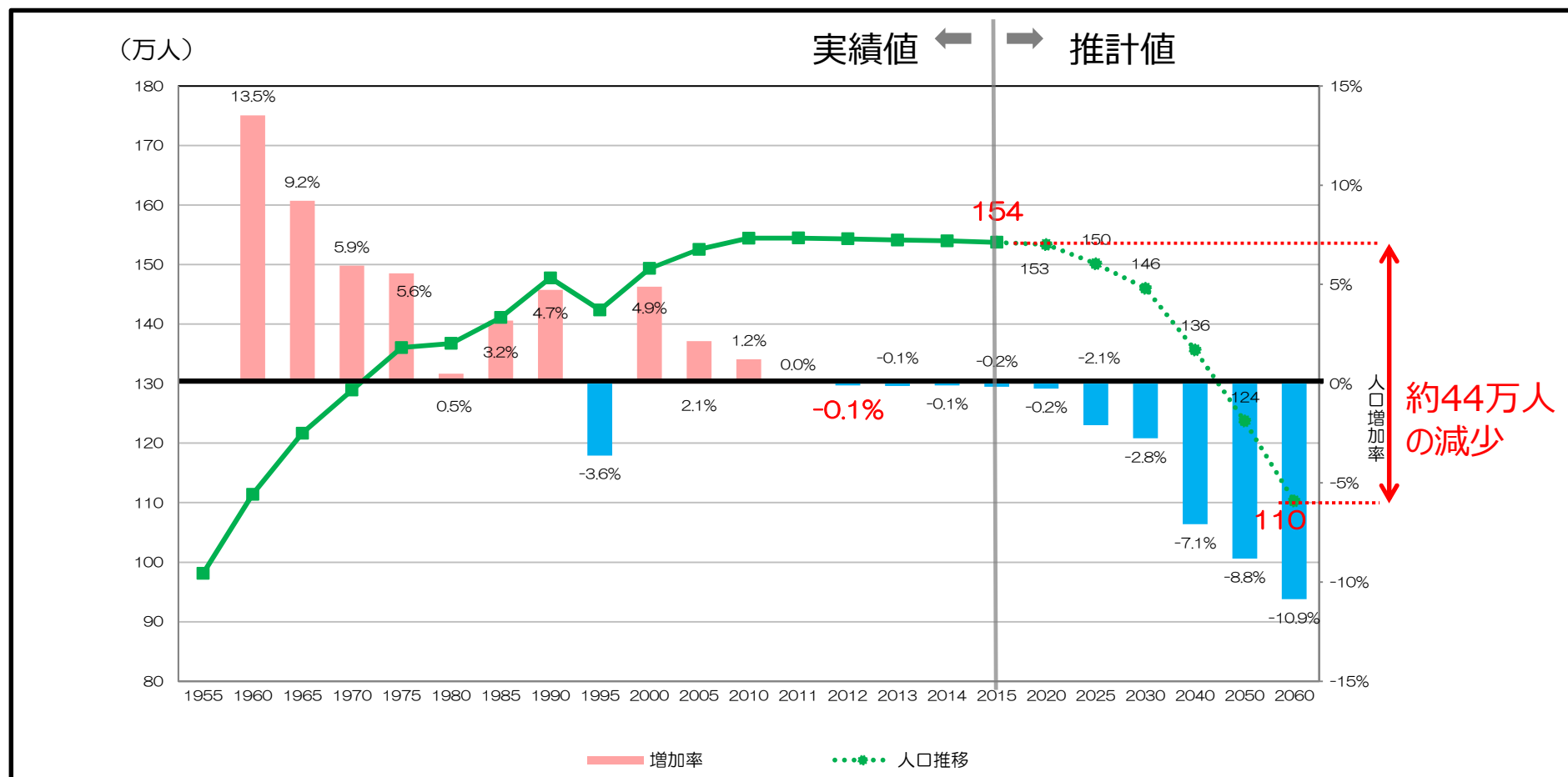
神戸市住宅都市局計画部都市計画課



大前提：人口は今後も減り続けます

- 2012年から人口が減り始めています
- 2015年から2060年の間に約44万人（約28%）減ると推計されています

図 神戸市の人口推移と今後の推計

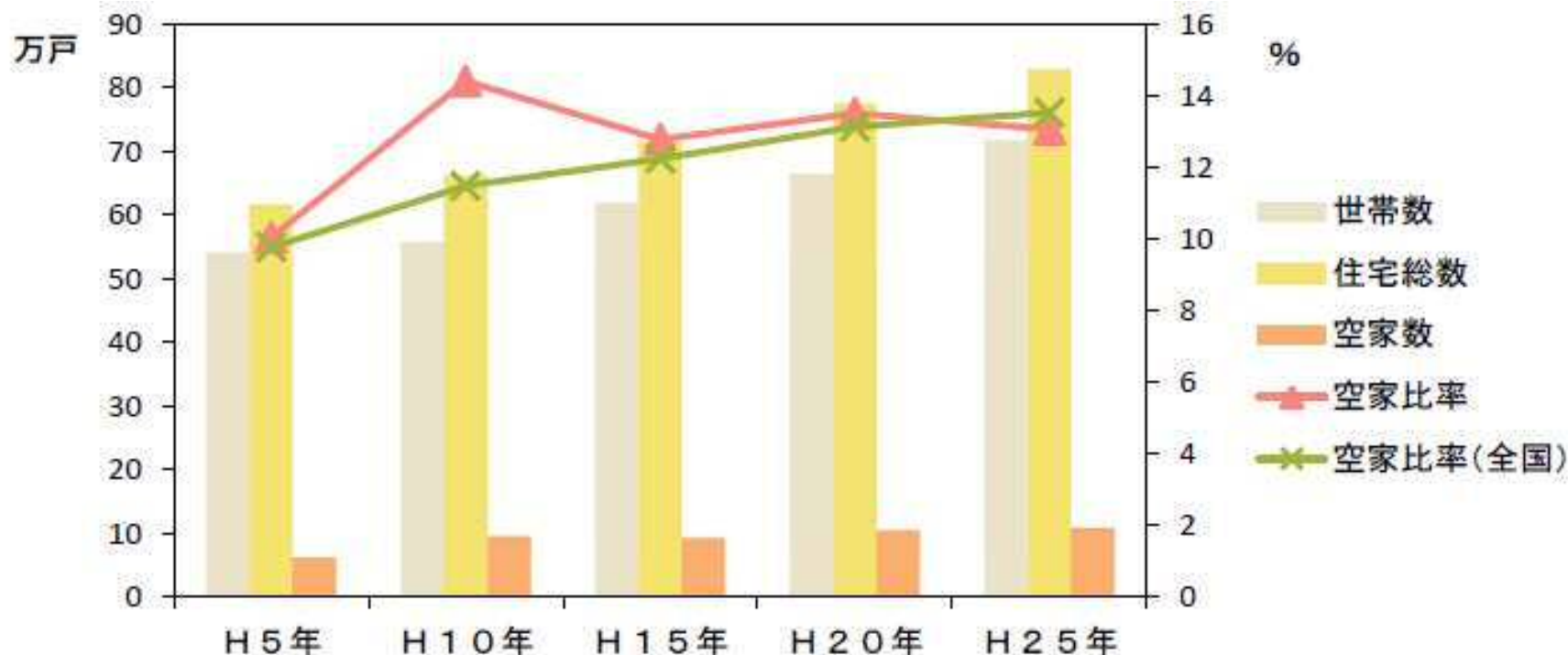


出典：(実績値) 国勢調査

(推計値) 国立社会保障・人口問題研究所「地域別将来推計人口」に準拠して算出した数値

既に住宅過剰でありこの問題はさらに深刻になります

- 平成25年時点で**約10万8千戸の空家**があると推計されている。
- 空家が今後も増えることが推定される。



	平成5年	平成10年	平成15年	平成20年	平成25年
世帯数	540,200	557,000	619,300	664,800	717,100
住宅総数	615,650	661,000	715,500	774,900	828,300
空家数	61,740	95,200	91,400	104,600	108,100
空家比率 (%)	10.03	14.40	12.77	13.50	13.05
空家比率 (全国) (%)	9.76	11.47	12.23	13.12	13.52

住宅空家 108,100 戸のうち 腐朽破損あり 24% 腐朽破損なし 76%

【図1 神戸市内の住宅戸数及び住宅の空家戸数の推移 (住宅・土地統計調査 (H25年))】

鉄道駅を中心にコンパクトシティの形成を進めます

【居住】

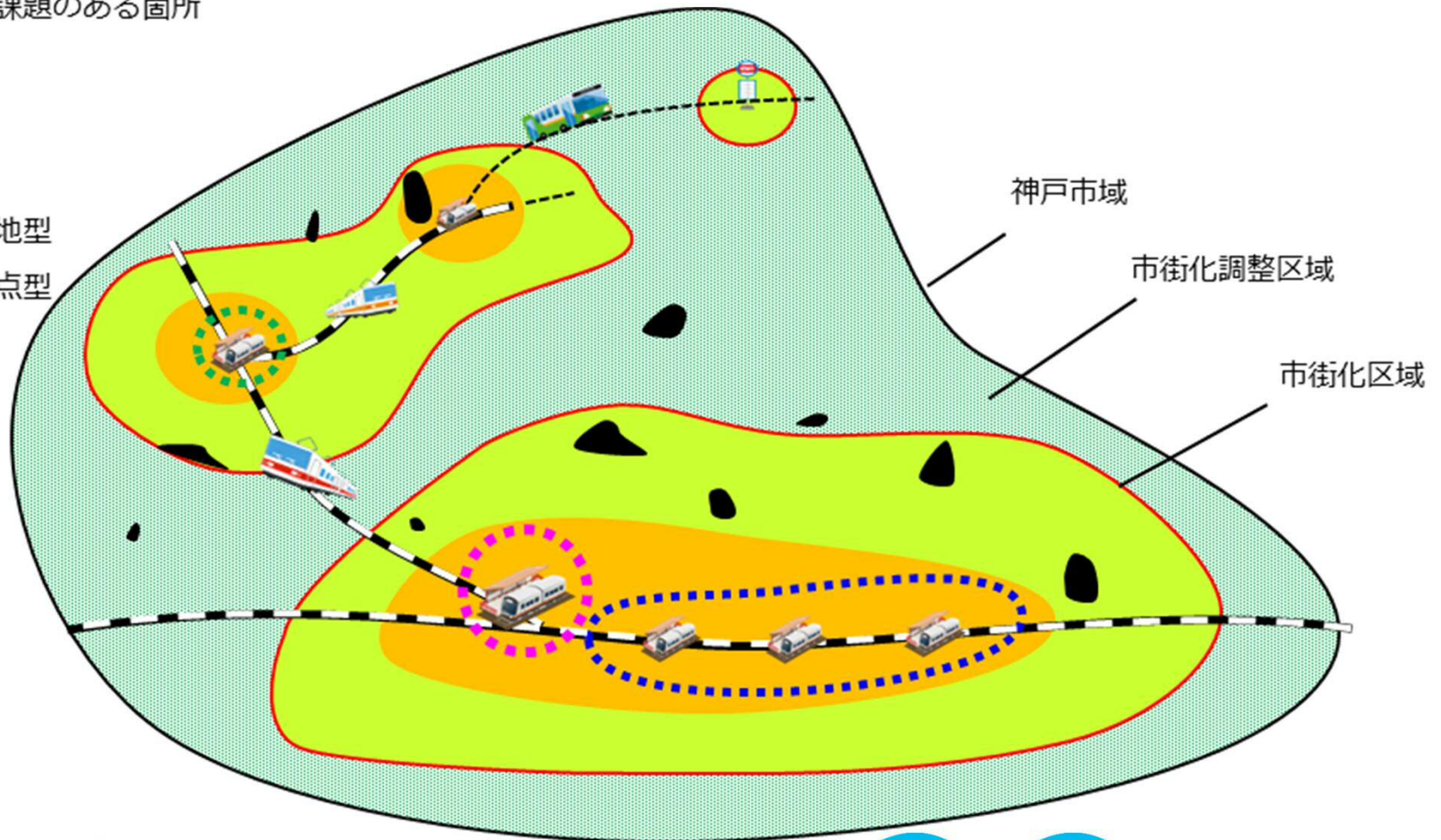
- 駅周辺居住区域
- 山麓・郊外居住区域
- 防災上課題のある箇所

【都市機能】

- 都心
- 旧市街地型
- 郊外拠点型

- 鉄道駅
- バス停

- この計画では、まちを駅からの距離で色分けします
- さらに、地域の拠点となる場所を示しています



都市空間向上計画の方針

【持続可能なまちに**ゆっくり**と変えていく】

大きな施設（図書館、区役所、百貨店など）は市にたくさん維持できないので、
鉄道やバスが集まる**地域の拠点となる場所（主要駅）**で維持する

⇒『広域型都市機能誘導施設』を『広域型都市機能誘導区域』へ

小さな施設はみんなのできる限り維持していく



都市空間向上計画の方針

【持続可能なまちに**ゆっくり**と変えていく】

- **拠点に繋がる駅の近く**は便利で人口減少の影響を受けにくい場所なので、**集まりすぎないように注意**しながら、**受け皿住宅の整備や、移住が必要な人へのサポートを行う**
⇒『**駅周辺居住区域**』
- **拠点から離れたところ**は、人口減少の影響を受けやすい場所
人口減少を受け入れながらも、地域の特徴を活かして
若い人が入ってきて子育てができる、仕事ができるなどの地域にしていく
⇒『**山麓・郊外居住区域**』
- **土砂災害特別警戒区域など、いつ災害があってもおかしくない場所**
防災対策は重要だが、**絶対安全なのは住まないこと**
⇒**防災上課題のある個所**



策定までのスケジュール

平成30年3月～4月

10月～11月

平成31年度中

・ 基本的な考え方（案）

市民意見募集（終了）

・ 基本的な考え方 修正案

市民意見募集（終了）

・ 計画素案

市民意見募集

・ 説明会の開催・相談所の開設

・ 計画案

市民意見募集

・ 計画策定

